

神奈川県における 小学校高学年教科担任制について

①県が目指す小学校高学年教科担任制

②令和4年度の成果



神奈川県教育委員会教育局
支援部子ども教育支援課

①県が目指す小学校高学年教科担任制

令和3年7月 義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について(報告)

(取組の効果)

① 授業の質の向上／学習内容の理解度・定着度の向上

- ・教師の担当教科の減・授業担当外の時間の増に伴う教材研究の充実
- ・同じ授業を複数回実施することによる授業改善

② 小・中学校間の円滑な接続

- ・児童が安心して進学し、中学校での学習・生活に順応しやすいといった点で小・中学校間の円滑な接続に寄与

③ 多面的な児童理解

- ・複数の教師が教科指導に当たることを通じて、多面的な指導・支援ができる
- ・学級担任以外にも相談できる教師がいる児童が増加

④ 教師の負担軽減

- ・学級担任の授業担当外の時間が増えることで教材研究が充実／時間外勤務が縮減
- ・授業交換を実施する場合を含め授業準備の効率化

県が目指す小学校高学年教科担任制

「授業の質の向上」「小中の円滑な接続」
「多面的な児童理解」「教員の負担軽減」
+

「特定教科の専科指導」+「学級担任間の授業交換」
⇒ 組織的な指導力・対応力の向上

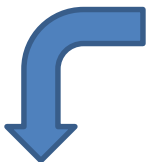
- ・いじめ・暴力行為の重篤化・長期化、「学級崩壊」の防止に向けた組織的な初期対応
- ・不登校の児童への組織的・継続的な指導・支援

等の課題を踏まえ、単に特定教科の専科指導に留まらず、教員の組織的な指導力・対応力の向上をめざした推進が必要。

○これまでの「学級担任制」を中心としたイメージ

1組担任

自クラスの
指導が基本

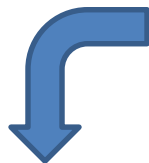


1組児童



2組担任

自クラスの
指導が基本

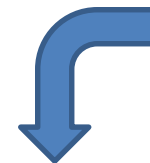


2組児童



3組担任

自クラスの
指導が基本



3組児童



専科

各クラスを
指導



▲学年への所属意識が
低いケースも見られる

○「教科担任制」(専科指導+学級担任間の授業交換)のイメージ

学年の中核教員

1組担任



各クラスの外国語
自クラスの体・社・
音・理以外の教科

2組担任



各クラスの体育
自クラスの外・社・
音・理以外の教科

3組担任



各クラスの社会
自クラスの外・体・
音・理以外の教科

担当教科は全クラスを指導

1組児童



2組児童



3組児童



専科

(従来から配置)

各クラス音楽



専科

(今回加配)

各クラス理科



中核教員を中心に、各担任及び専科教員等、学年に関わる全教員で児童に関わり、組織的な指導力・対応力の向上につなげていく

○「教科担任制」(専科指導+学級担任間の授業交換)のイメージ

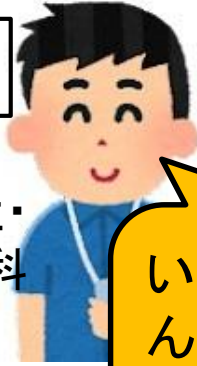
学年の中核教員

1組担任



各クラスの外国語
自クラスの体・社・
音・理以外の教科

2組担任



各クラスの体育
自クラスの外・社・
音・理以外の教科

3組担任



各クラスの社会
自クラスの外・体・
音・理以外の教科

そうですか。Aさん、クラスでは変わった様子はなかったのですが...

いつも元気なAさん、今日の体育は何か元気がなかったんですよ。

みなさん、ありがとうございます。Aさんについては、今後も声掛けをしながら、職員間でも情報共有をしていきましょう。

日頃の職員室等での会話や、定期的に行われる学年会の機会などを活用して児童の情報を共有し、組織的な指導・対応につなげていく。

そういえば、Aさん、今度の歌のテストが不安なようで、先日私からも声を掛けたところです。



3組のAさん

専科

(従来から配置)

各クラス音楽



専科

(今回加配)

各クラス理科



Aさん、理科の時間は特にBさんと仲良く実験などに取り組んでいます。

○調査研究等から確認できた主な成果

・「物理的に担任学級の児童と接する時間は少なくなったが、そのことで児童への理解が不十分になったとは全く感じない」「他の教員が授業に入ったことで、学級担任から見た児童の見方が一面的であったことに気付かされた」という教員からの意見があげられた。また、「職員室などで児童の様子を連絡し合うことで、多くの教員の目で児童の成長を見ていくことの大切さを実感することができた」という意見もあった。

・(教科担任の授業に関して)不安に「あまり思わない」、「まったく思わない」を合わせると、3年生では96%、5年生では94%と、3年生においても5年生においても相違は見られない。

「義務教育9年間を見通した指導体制に関する調査研究(R2年度)」

PwCコンサルティング合同会社(文部科学省より委託)より

・小学校においては、基本的に学級担任制のため、空き時間の教員が少なく、緊急時の対応の際に人員が不足しがちであるが、当該校においては、一部加配教員の専科指導があるため、学級担任の負担軽減につながっていた。

・教科ごとに1人の教員が学年内で指導と評価を行うため、学習指導上及び学習評価上の学級間における差異が生まれにくくなった。

・加配教員によって生まれた空き時間で、学級担任がTTで参加し、個別指導が必要な児童への支援を行うことができた。

・学級担任間の授業交換によって、各教員の強みを生かし、より専門的な指導ができた。

令和2・3年度実施 寒川町立小学校における教科担任制推進事業の取組の成果より

**②令和4年度の成果
(推進協力校実施のアンケートより)**

<小学校高学年教科担任制アンケート>

1 目的

小学校高学年教科担任制の導入により期待される「組織的な指導力・対応力の向上」「多面的な児童理解」「授業の質の向上」「小・中学校間の円滑な接続」「教師の負担軽減」及び、県が目指す「特定教科の専科指導」と「学級担任間の授業交換」による効果について検証し、県内の小学校高学年教科担任制の充実を図る。

2 対象

- ・ 推進協力校において、5・6年生の教科指導に関わる全教員
- ・ 推進協力校の5・6年生の全児童

アンケートについて

①学校用調査

小学校高学年教科担任制アンケート【学校用】		
学校名（市町村立から記入）		学校長氏名
学級数		教科担任制に伴い特に校内で力をいれていること
5年	6年	

◎教科担任制を実施する中で取り組んでいる以下の項目について、校内の先生方が感じていることや実践していること等の意見をまとめ、口の中に記入してください。

問1 授業の内容や準備等について

問2 児童指導や児童理解について

問3 地域・保護者等への説明や情報発信について

問4 時間割編成等について

問5 その他のことについて

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

※それぞれの学校のアンケートの調査結果について、県で取りまとめて分析し、連絡協議会や担当者会議等で検証結果について活用しています。

・ 校内の先生方の意見を取りまとめ、各設問の内容について自由記述で回答するものです。

・ 各学校で教科担任制を実施する中で特に取り組んでいただきたいことを設問に挙げています。回答内容を踏まえ、各学校における取組の更なる充実にもつなげられるようにしています。

②児童用調査

小学校高学年教科担任制アンケート【児童用】

学校名	学年	組

◎あなたの学校では、いろいろな先生が教科の授業などを行い、みなさんに関わっています。現在の学校生活について、あなたはどのように感じていますか。当てはまるものを下の1から4の中から一つずつ選び、番号で教えてください。

問1 いろいろな先生がわたしに関わってくれる。
 例) ・あいさつをしてくれる。 ・自分の名前を呼んでくれる。
 ・ノートなどにコメントしてくれる。 ・声をかけてくれる。 など

4
3
2
1

当てはまる どちらかといえば 当てはまる どちらかといえば 当てはまらない 当てはまらない

回答らん

問2 先生方は話しかけやすい。
 例) ・休み時間などにおしゃべりしてくれる。 ・自分の意見を聞いてくれる。
 ・相談にのってくれる。 ・質問に答えてくれる。 など

4
3
2
1

当てはまる どちらかといえば 当てはまる どちらかといえば 当てはまらない 当てはまらない

回答らん

問3 授業がわかりやすい。
 例) ・わからないところを教えてくれる。 ・みんなで相談できるようにしてくれる。
 ・自分で考える時間をくれる。 ・例を示してくれる。 など

4
3
2
1

当てはまる どちらかといえば 当てはまる どちらかといえば 当てはまらない 当てはまらない

回答らん

問4 学校が楽しい。
 例) ・友達と過ごすのが楽しい。 ・休み時間などに遊ぶのが楽しい。
 ・授業の時間が楽しい。 ・学校の行事が楽しい。 など

4
3
2
1

当てはまる どちらかといえば 当てはまる どちらかといえば 当てはまらない 当てはまらない

回答らん

以上で終わります。ご協力ありがとうございました。

・各設問は、小学校高学年教科担任制の導入により期待される効果である「組織的な指導力・対応力の向上」「多面的な児童理解」「授業の質の向上」「小・中学校間の円滑な接続」の結果、児童に反映されると思われる内容にしています。

・取組が進む中での変容を見取るため、同内容のアンケートについて、3回実施しています。

・複数回の調査結果から、児童の変容などを捉え、教科担任制をはじめとした校内の様々な取組の一層の充実につなげられるようにしています。

③教員用調査

小学校高学年教科担任制アンケート【教員用】

学校名 (市町村立から記入)	職名	氏名

◎教科担任制の導入により、どのような効果があったと感じていますか。当てはまるものを下の1から4の中から一つずつ選び、番号で教えてください。

問1 「組織的な指導力・対応力の向上」につながっている。

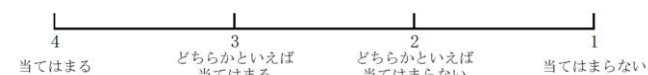
例) ・学年会やケース会等で児童の情報を共有して指導方針を決め、役割分担をして取り組んでいる。
・担任だけで課題を抱えず、学年や学校で組織的に対応している。 など



回答欄

問2 「多面的な児童理解」につながっている。

例) ・担任をしている学級以外の児童についても気付いたことを他の教員に積極的に伝えている。
・他の教員等と話す中で、児童の新たな面を共有している。 など



回答欄

問3 「授業の質の向上」につながっている。

例) ・教材研究や授業準備等の内容が充実している。
・同一授業を複数回実施することで授業改善につながっている。 など



回答欄

問4 「小中の円滑な接続」につながっている。

例) ・小中の学びのつながりを意識した指導をしている。
・中学校生活への接続を意識した児童指導等をしている。 など



回答欄

問5 「教員の負担軽減」につながっている。

例) ・教材研究や授業準備等の時間の削減につながっている。
・組織力向上により問題行動等の未然防止や初期対応の充実につながっている。 など



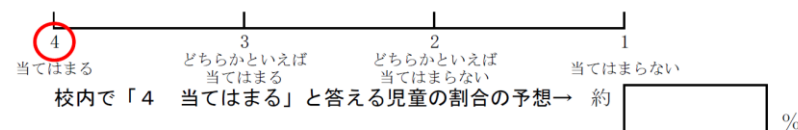
回答欄

※裏面に続く

◎以下の児童用の設問の内容について、現時点で校内の何%の児童が「4 当てはまる」と回答すると思いますか。予想した数字を整数で記入してください。

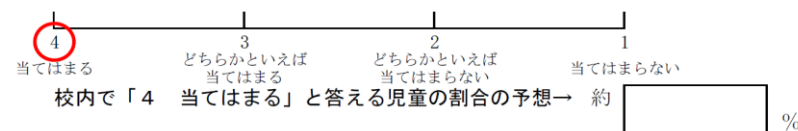
問1 いろいろな先生がわたしに関わってくれる。

例) ・あいさつをしてくれる。 ・自分の名前を呼んでくれる。
・ノートなどにコメントしてくれる。 ・声をかけてくれる。 など



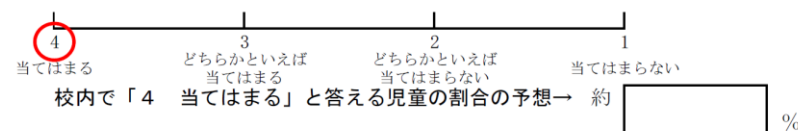
問2 先生方は話しかけやすい。

例) ・休み時間などにおしゃべりしてくれる。 ・自分の意見を聞いてくれる。
・相談ののってくれる。 ・質問に答えてくれる。 など



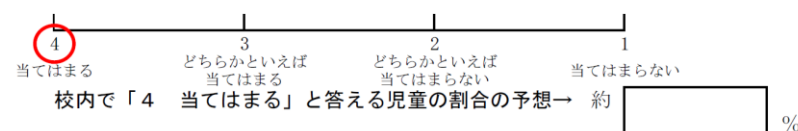
問3 授業がわかりやすい。

例) ・わからないところを教えてくれる。 ・みんなで相談できるようにしてくれる。
・自分で考える時間をくれる。 ・例を示してくれる。 など



問4 学校が楽しい。

例) ・友達と過ごすのが楽しい。 ・休み時間などに遊ぶのが楽しい。
・授業の時間が楽しい。 ・学校の行事が楽しい。 など



以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

- ・表面（左側）は、小学校高学年教科担任制の導入により期待される効果の項目に対応しています。
- ・裏面（右側）は、児童用調査の内容に対応しています。アンケート集計後、児童の状況と教員の予想とを比較し、「ズレ」に注目することで、各学校の成果や課題を捉えやすくできるようにしています。

学校用調査(自由記述)の内容より

◆授業の内容や準備等について

○担当する教科が減ったことで、教材研究が丁寧にでき、ありがたい。**多くのことにチャレンジできる。**児童の提出物等もよりじっくり見られるようになった。

○**学年で統一した授業内容、評価ができるのが良い。**

●授業交換等の結果、経験の浅い教員が自クラスを指導する場合は、学級担任がT2に入る必要が生じ、**空き時間を増やすことにはつながっていない。**

●共通で指導しない教科の指導内容等については、**学年内で検討する機会がなくなる傾向がある。**

学校用調査(自由記述)の内容より

◆児童指導や児童理解について

○「学年で見る」という意識をもてるようになり、より多くの児童との関わりをもつことができた。児童にとっても、多くの教員と関わることはとても有益と感じる。

○行事等と比べ、授業を通しての児童理解は、長期的・継続的に行われるため、より確かなものになっていると感じる。

○児童の名前を出して話し合う機会が更に増えた。

○トラブル対応も、複数の教員で行うことができた。

●学級担任としては、自分のクラスの児童との関わりが薄くなったようにも感じる。

学校用調査(自由記述)の内容より

◆地域・保護者等への説明や情報発信について

- 学年懇談会で説明した他、学級・学年・学校便り、PTAの各行事、ホームページなどあらゆる機会を活用して児童の様子や成果を発信している。
- 学級便りで、学級担任が指導しない教科に関わる連絡事項なども共有して伝えている。
- 交換授業や専科授業の際の学級の児童の様子を学級担任と共有し、面談等で保護者に伝えられるように工夫している。
- 個人面談等で、受け持っている教科以外の様子を話すのが難しい。

学校用調査(自由記述)の内容より

◆時間割編成等について

○4月当初は大変であるが、特別教室の使用を最優先に学校全体で調整を図って時間割編成を行ったことで、学年ごとの行事や職員の休暇への対応が取りやすくなり、自習になることも大幅に減った。

○中学校の知恵を含め、時間割編成に負担の無いようにしたい。

●運動会などの行事の際の時間割調整は難しい。

●教員の急な欠席などがあった場合、即座に対応することが難しい。

学校用調査(自由記述)の内容より

◆その他のことについて

○今後必須の取組である。一刻も早く、全校に導入してほしい。

○教科ごとに指導教員が変わることで、自然と前後の時間の授業への配慮にもつながるため、児童・教員の時間に対する意識が高まっている。

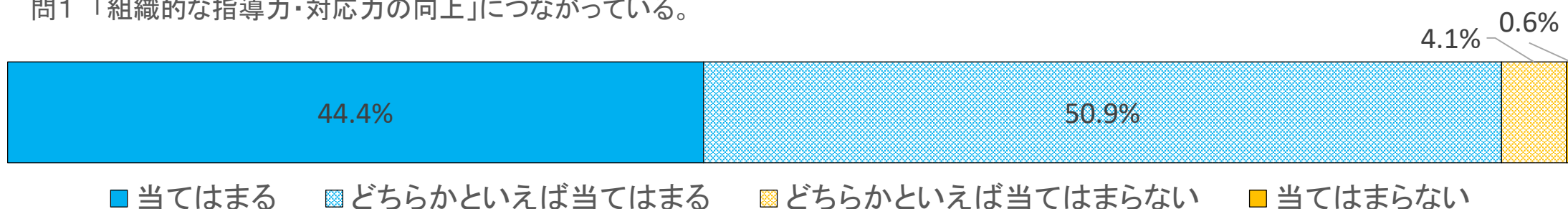
○職員の連携が一層深まってきていると感じる。

●単級の場合、教科担任制の良さが発揮されにくい。同一学年間の授業交換は効果的だが、他学年間の授業交換については課題があると感じる。

教員用調査より

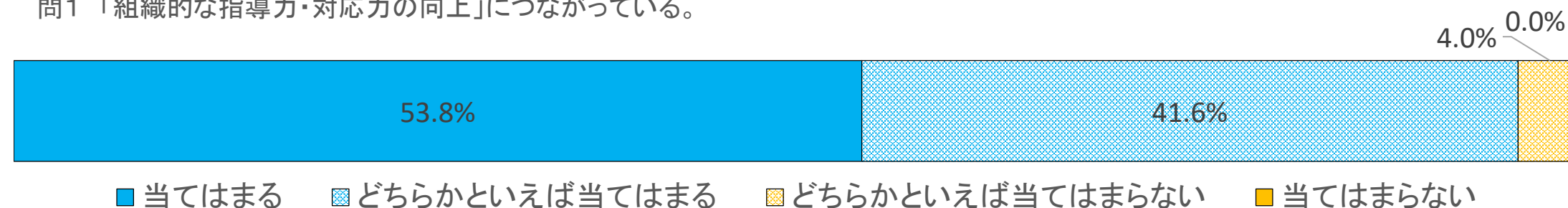
【第1回(7月)】 「組織的な指導力・対応力の向上」

問1 「組織的な指導力・対応力の向上」につながっている。



【第2回(11月)】

問1 「組織的な指導力・対応力の向上」につながっている。

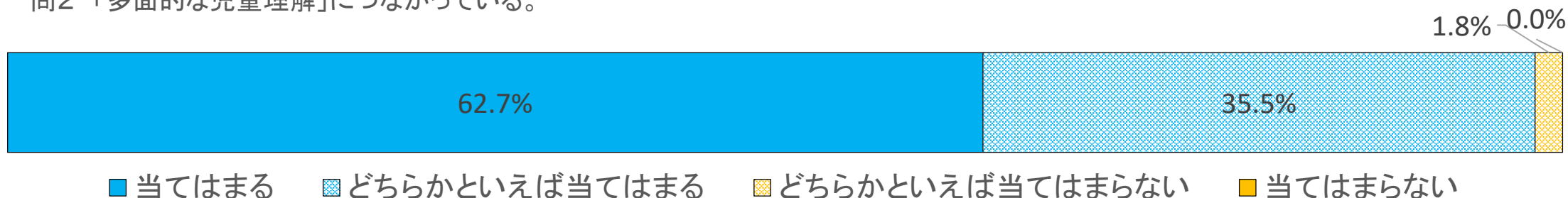


第1回調査に比べ、第2回は「当てはまる」の回答割合がさらに高くなった。各校の工夫した取組が、多くの教員の実感にもつながっていると考えられる。

教員用調査より

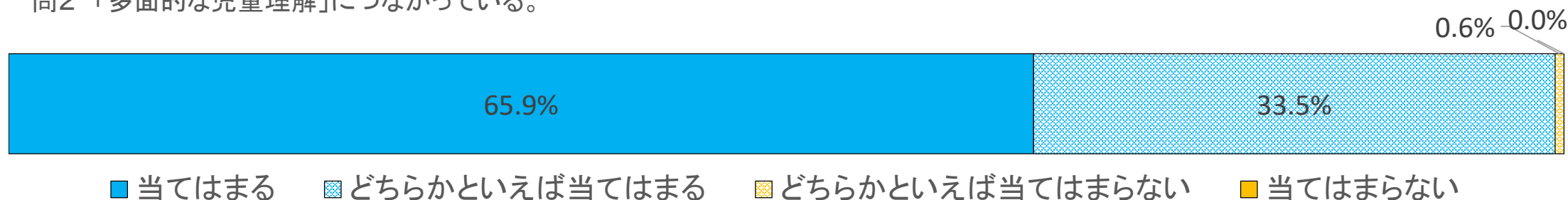
【第1回(7月)】 「多面的な児童理解」

問2 「多面的な児童理解」につながっている。



【第2回(11月)】

問2 「多面的な児童理解」につながっている。



こちら、第1回調査に比べ、第2回は「当てはまる」の回答割合がさらに高くなった。複数の教員が目でも多面的に児童を理解していこうという意識の高まりが感じられる。

教員用調査より

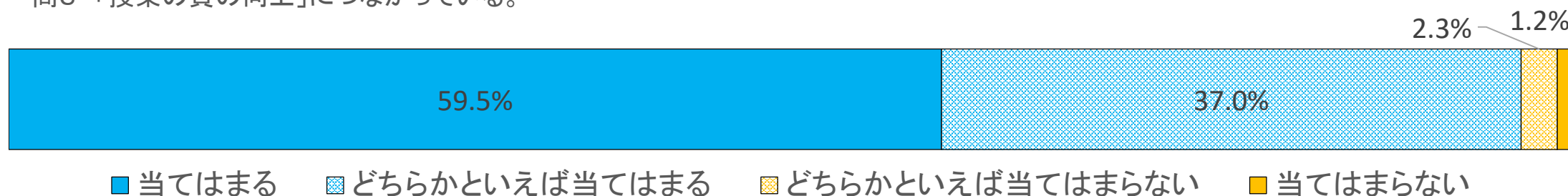
【第1回(7月)】 「授業の質の向上」

問3 「授業の質の向上」につながっている。



【第2回(11月)】

問3 「授業の質の向上」につながっている。

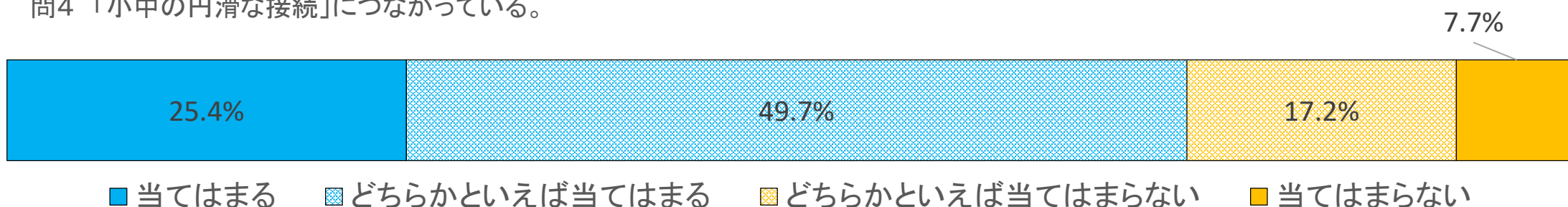


こちら、第1回調査に比べ、第2回は「当てはまる」の回答割合がさらに高くなった。多くの教員が授業の質の向上を実感している点は大きな成果であると考えられる。

教員用調査より

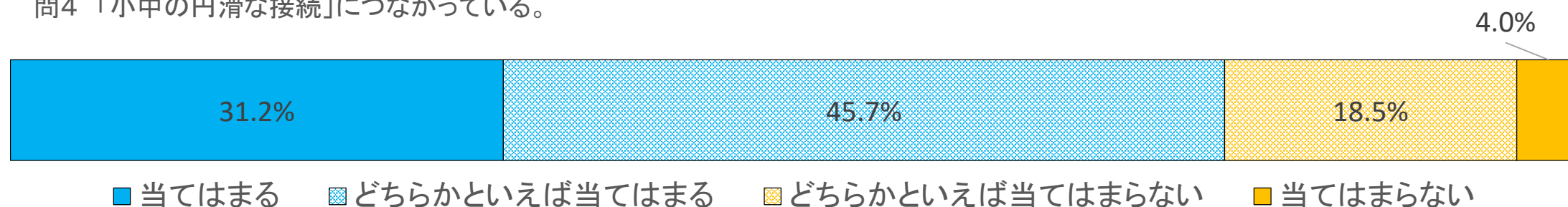
【第1回(7月)】 「小中の円滑な接続」

問4 「小中の円滑な接続」につながっている。



【第2回(11月)】

問4 「小中の円滑な接続」につながっている。



第2回調査ではさらに肯定的な回答が増えた。しかし、他の設問に比べると「当てはまる」と答えた割合は低い。今年度の児童が卒業し中学校に進学した後、学区内の中学校から聞き取るなどして状況を確認することも考えられる。

教員用調査より

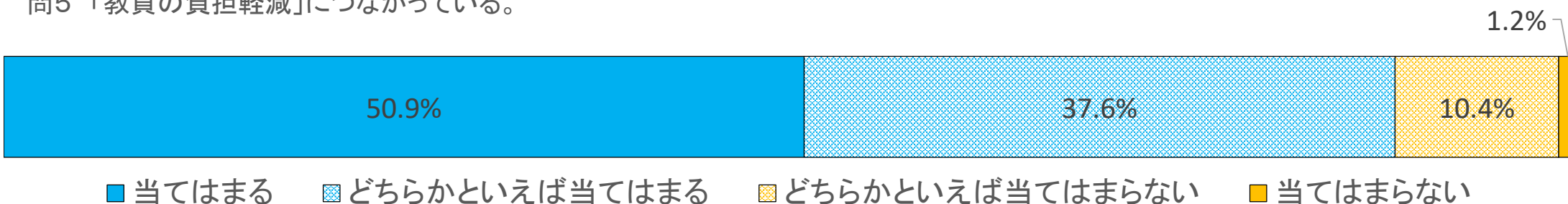
【第1回(7月)】 「教員の負担軽減」

問5 「教員の負担軽減」につながっている。



【第2回(11月)】

問5 「教員の負担軽減」につながっている。

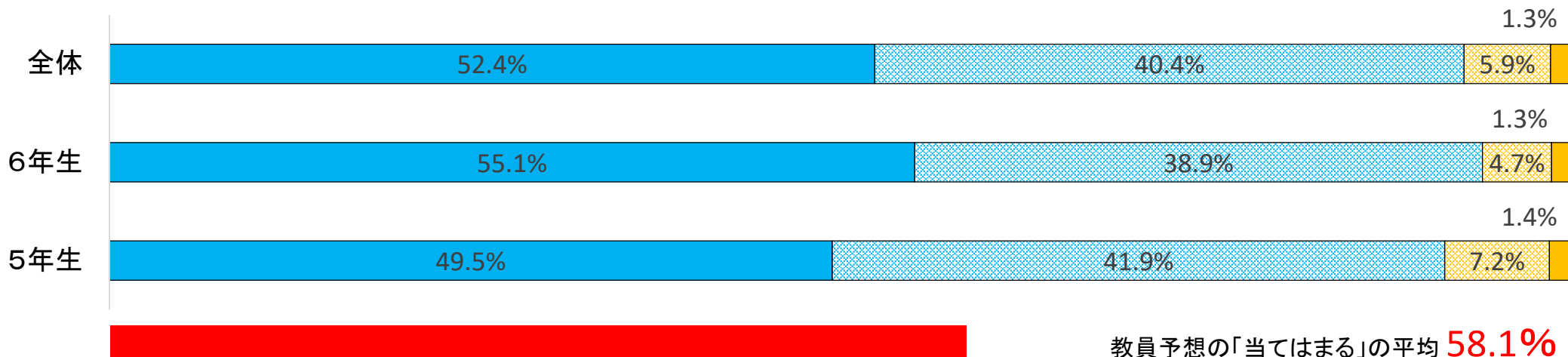


第2回調査では「**当てはまらない**」の回答が減少した。取組を進める中で効果を実感するとともに、「時間割編成」についても工夫した取組が進む中で、全体として「負担」と感じる割合が減少していると考えられる。

児童用調査より

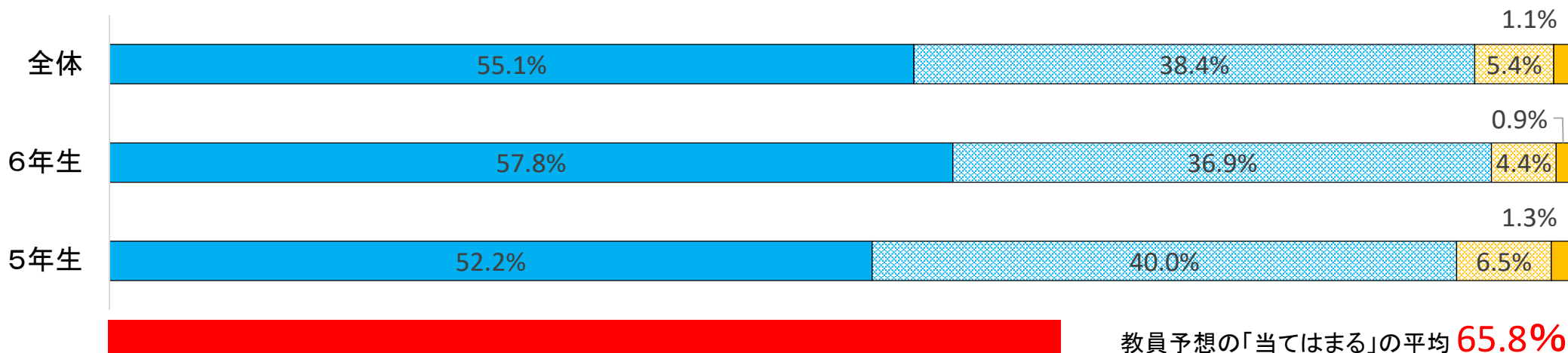
第1回(7月)

問1 いろいろな先生がわたしに関わってくれる。



第2回(11月)

問1 いろいろな先生がわたしに関わってくれる。

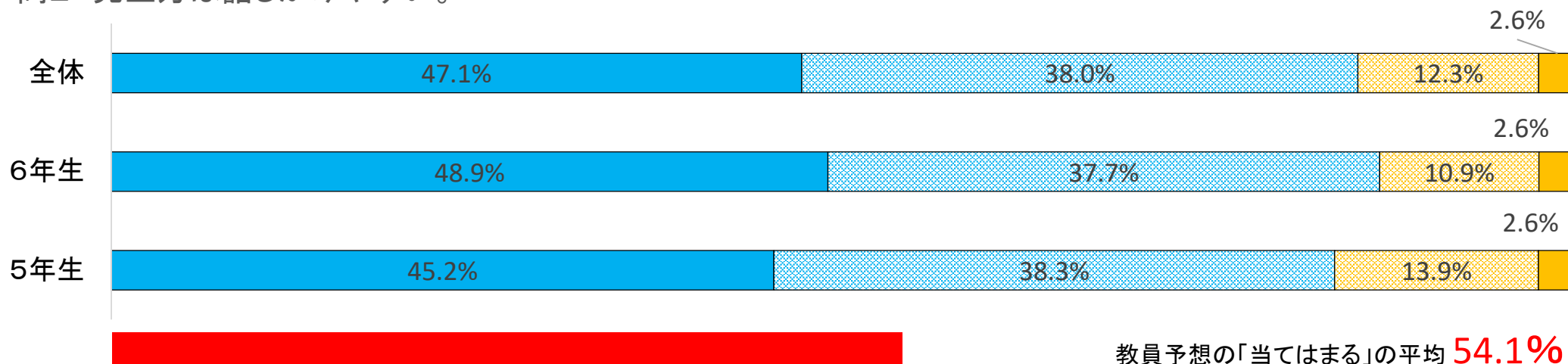


■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

児童用調査より

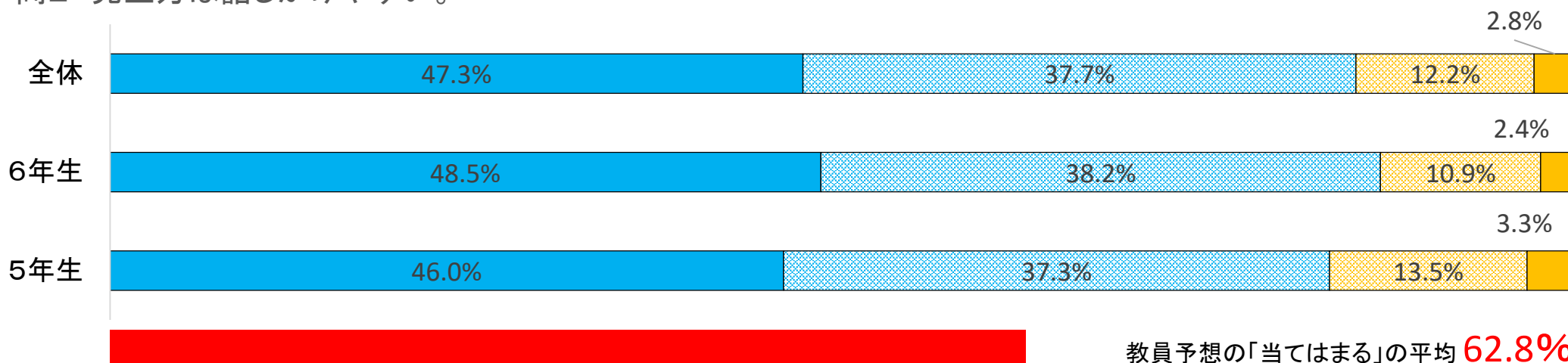
第1回(7月)

問2 先生方は話しかけやすい。



第2回(11月)

問2 先生方は話しかけやすい。

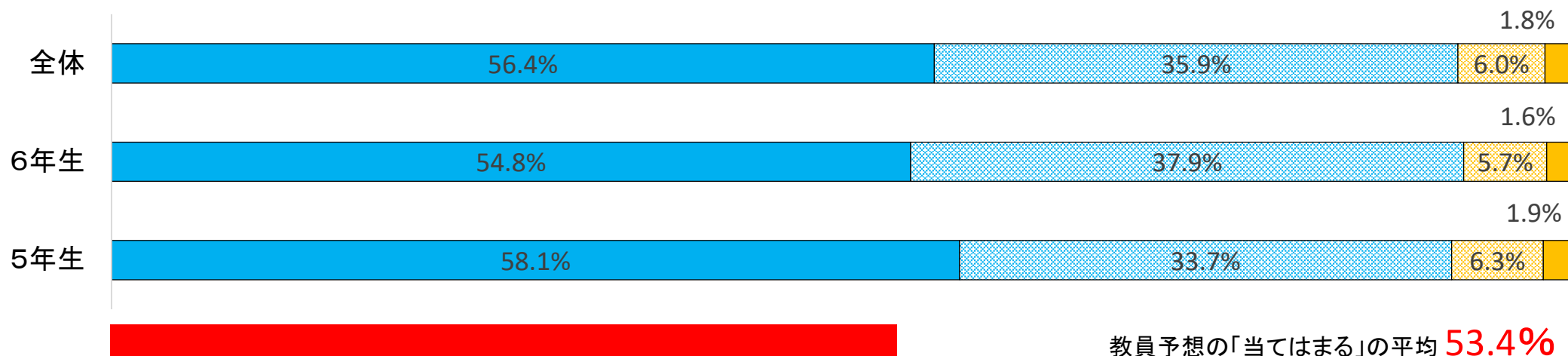


■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

児童用調査より

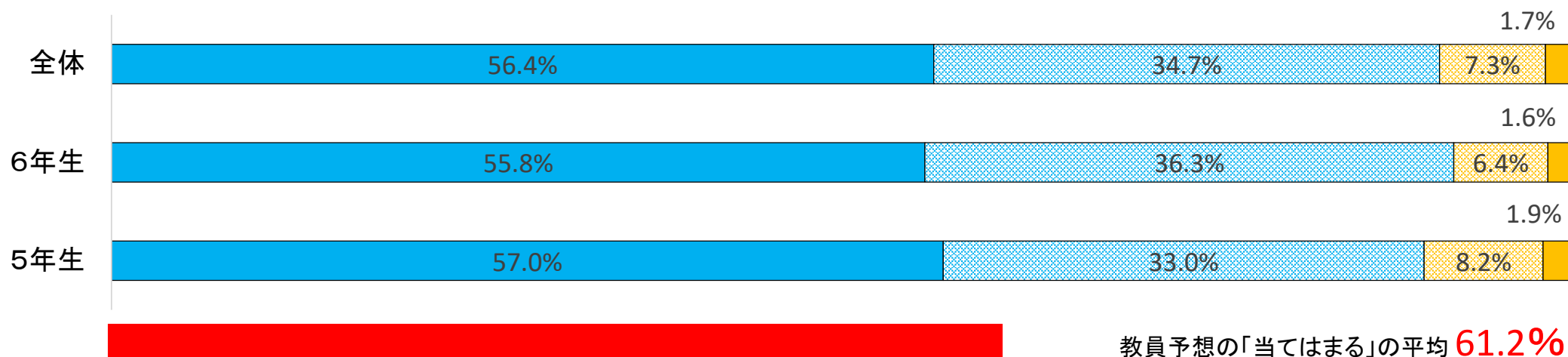
第1回(7月)

問3 授業がわかりやすい。



第2回(11月)

問3 授業がわかりやすい。

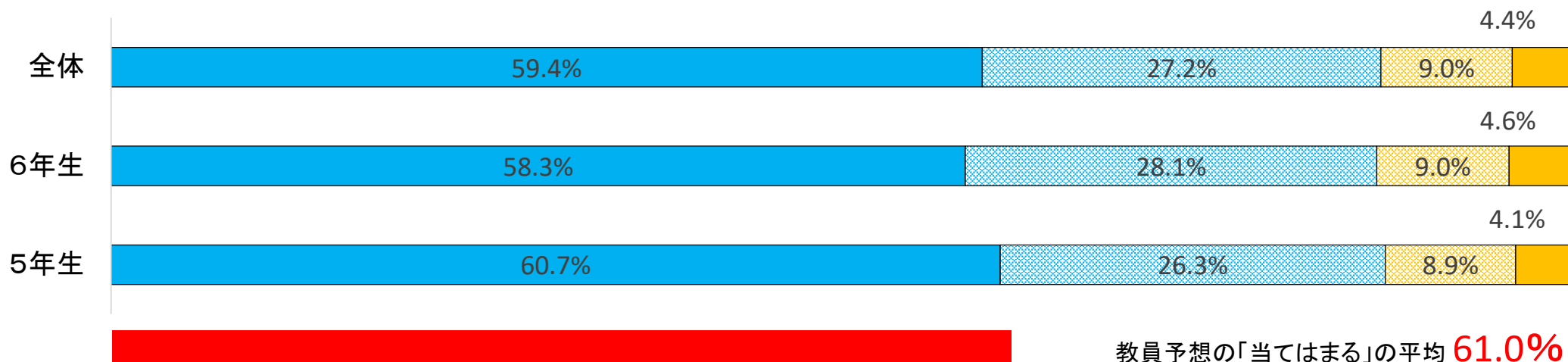


■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

児童用調査より

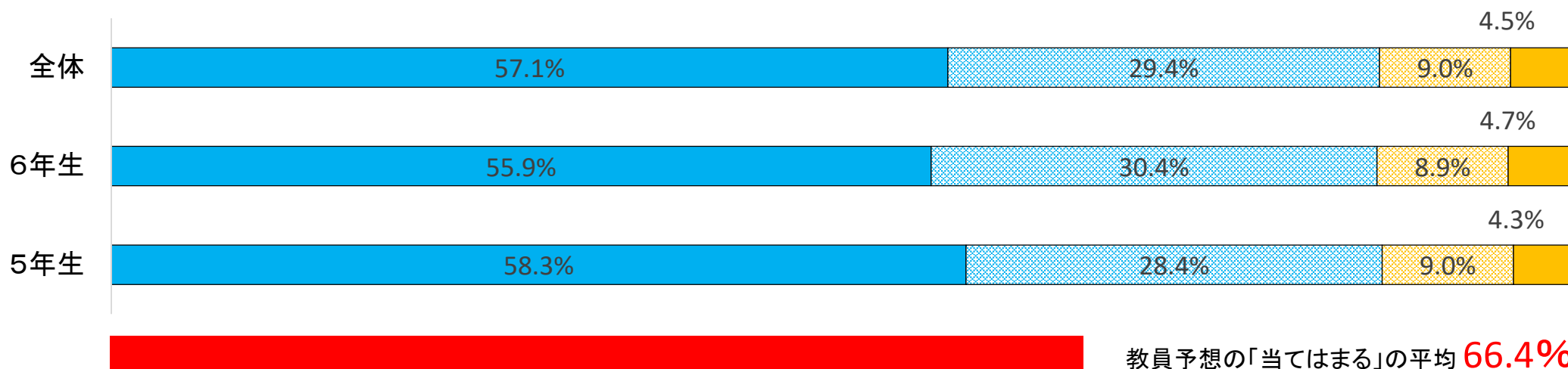
第1回(7月)

問4 学校が楽しい。



第2回(11月)

問4 学校が楽しい。



■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

児童用調査より

第1回と第2回の結果を比較すると、極端に大きな変化は見られないが、「いろいろな先生がわたしに関わってくれる」の肯定的な回答に増加が見られる。数カ月の期間ではあるが、先生方の児童への関わりが、児童の実感としてもより捉えられつつあるものと考えられる。

教員予想の「当てはまる」の割合は、総じて第2回のほうが高い結果となったが、その期待に比べ、児童の割合に大きな変化が無かった。より長いスパンでの効果検証が必要と考えられる。

一方、「学校が楽しい」の割合がわずかとはいえ低下していることが気にかかる。小学校高学年という繊細な年代の児童との関わりがより重要であることを示す一つの材料とも考えられる。